

若者チャレンジショップ事業及び大学生連携活性化事業

施策のポイント

市内の商業高校及び大学の学生の交流活動と起業体験、地域貢献を推進するとともに、その活動の場を中心市街地の商店街の空き店舗に設定し、併せて地域の活性化を図ろうとする取り組みであること。

自治体情報

三重県津市

人口 / 281,293人

標準財政規模 / 64,946,399千円

担当課 商工観光部商業労政振興課

電話番号 直通 059-229-3169

実施主体 津市、(株)まちづくり津夢時風

関連ホームページ <http://miemarche.mie1.net/>

事業期間 平成 21 年度から

参考とした施策

関係施策分類

施策の概要

1 取組に至る背景・目的

モータリゼーションの進展と郊外型商業施設の進出などにより、中小小売店や商店街を取り巻く環境は、厳しい状況となっている。特に、中心市街地においては、小売店の撤退や都市機能が分散するとともに、人口減少や高齢化が進み、衰退傾向にある。

このため、様々な事業の展開による中心市街地の活性化への取り組みが必要である。

2 取り組みの具体的内容

(1) 高校生による若者チャレンジショップ事業

津商業高校の生徒が「商品開発と販売実習」をテーマとして、大門大通り商店街内にある空き店舗を利用し、自分たちが考えたオリジナル商品を始めとする市内の他高校の生産物や市内の物産品などを販売した。

(2) 大学生連携活性化事業（「つ・だいもん学生マルシェ」）

商店街の空き店舗を活用し、ベンチャーサークルに所属する地元大学生が「つ・だいもん学生マルシェ」を開設し、単に店舗で商品を販売するというだけでなく、仕入れる商品へのこだわり、魅力ある店舗づくり、集客力のある宣伝や企画など大学生ならではの発想と感覚でプロモーション事業を展開しながらその存在感をアピールした。

3 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

中心市街地を学生の様々な活動の拠点とすることにより、若者という新しい活力と視点や発想を活かし、中心市街地に賑わいを創出しようとするものである。また、この活動を通じて地域への愛着を持ってもらうとともに、将来の地域活性化を担う人材育成にも繋げていきたい。

4 現在までの実績・成果

学生ならではの発想力により、高校生と大学生が協力しながら、宣伝（チラシ配布及びブログの作成）及び販売を行い、商品をすべて完売できた。また、高校生は販売実習に係るマナー研修で学んだ内容を中学生に教えるなど積極的に取り組んだ。

5 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

販売のための商品仕入れや開発などのために長期間にわたる活動が行われたが、その度に係る経費の捻出に苦労した。マスコミを利用した宣伝などにより販売実績が上がり、利益が確保できたので最終的に決算はうまくいったが、利益の部分は事前に予測できなかったため、予算確保に苦労した。

6 今後の展開と課題

今後は、この経験を活かし、小学生から専門学校生、さらには一般人も含めたさまざまな活動の拠点を中心市街地の空き店舗などに設置し、もっと商店街と連携した取り組みを行っていきたい。

商店街ににぎわいを ～若者の感性で地域を元気に～

ライフスタイルの変化や郊外型大型店の進出などにより、中小小売店や商店街を取り巻く環境は厳しい状況となっています。特に、中心市街地においては小売店の撤退や都市機能が分散するとともに、人口減少や高齢化が進み、衰退傾向にあります。この状況は全国的な傾向で、中心市街地の活性化が大きな課題となっています。

そこで、魅力的なまちづくりや元気なまちづくりのきっかけにしておうち、高校生や大学生などが参加する中心市街地活性化事業を実施します。



▲商店街を实际で歩いて調査する学生の皆さん

空き店舗を活用した職業体験(若者チャレンジショップ)

■TG☆Shop

津商業高校の生徒が、地産地消にこだわったオリジナルの梨プリンやさまざまな商品を仕入れて販売します。

と き 11月22日(日)・23日(月・祝)10時～15時30分
ところ 大門大通り 商店街内

津商業高校3年生の課題研究という授業で「商品開発と販売実習」をテーマに取り組んでいる皆さんが参加します。当初はウナギを使った商品を考えてきましたが、昨年度参加した先輩が特産物である久居地域のナシを使ったジャムを販売したのを参考にナシを利用することにしました。

まず、ナシを使ったカレーを試作してみたのですが、普段食べているカレーとの違いが分からなくてナシらしさを感じられなかったと却下。そこでプリンにしてみましたところ、ナシの風味が感じられ、さっぱりとおいしく仕上がったといえます。商品名も生徒自身で考えた「サップリン(さっぱりしたプリン)」に決定。店の名前は「TG☆Shop(津商ガールズを略してTG)」。

当日は、開発した商品以外にも、地域の商店に当日限定の商品をつくってもらったり、県内の専門学科の高校生などが日々の授業で製作した商品を仕入れて販売します。



「高校生らしく元気で明るいお店づくりをして、がんばりますので、ぜひお越しください。商品と一緒にわたしたちの元気も受け取ってもらいたいです」と意気込むスタッフの皆さん



▲生徒のアイデアから生まれた久居地域のナシを使ったプリン「サップリン」



▲昨年開催した若者チャレンジショップの様子

2 広報津 21.11.16

学生のアイデアで地域活性化 ■つ・だいもん学生マルシェ

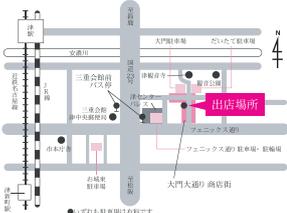
三重大学生などが参加するベンチャーサークルをはじめとする意欲のある学生が、県内各地でこれまで地域活性化イベントとして関わった地域の産物や加工品などを、学生ならではの発想によるプロモーション活動を展開しながら販売します。

と き 11月28日(土)10時～17時、29日(日)9時～14時
ところ 大門大通り 商店街内
販売品目 市内の物産、御旅町のミカン、地域の食材でつくるたこ焼き、カレーなど

起業などを目指すベンチャーサークルの皆さんが販売する商品は、自分たちで見つけ、取り寄せてきましたが、その商品が作られる過程にも携わってきました。米であれば稲刈り、ミカンであれば摘果を行いました。その土地で合宿して、地元の人と触れ合い、実際に体験することで、生産者の思い入れを感じることができました。ですから、その商品一つ一つにストーリーがあるというわけです。

集客については、ポスターやチラシをはじめ、ホームページなどでも情報発信し、併せて中学生にも来店を呼び掛けるなどしています。また、大勢のスタッフが運営することで口コミなどでさらにイベントが広がり、にぎわいを感じられる場所となるよう計画しています。当日は販売以外にも、子ども向け木工教室などのイベントを企画しています。

「地域活性化の第一歩は、まずその地域を知ってもらうこと、地域の存在をアピールする必要があります。今回のイベントでは、わたしたちが取り組んでいる起業や農商工連携というテーマもありますが、これが地域活性化の一助になれば、いずれ活性化の津モデルとして全国にも発信していきたいと考えています。」と参加者は話していました。



市では、中心市街地活性化の一環として、学生との連携による事業に取り組んでいます。中心市街地を学生のさまざまな活動の拠点とすることにより、若者という新しい活力で商店街などににぎわいを創出したいと考えています。

さらに、地元での職業体験を通じ、将来の地域活性化を担う人材が育つことも期待されることから、今後も積極的にこの事業を展開していきたいと考えています。

問い合わせ 商業労働振興課 ☎229-3169 ☎229-3335

3

予算関連データ

総額 ①～⑤の計	財源内訳(財源区分:①～⑤)				
	①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
H21:1,040千円	0千円	0千円	0千円	0千円	1,040千円
①～④の名称、 所管など	名称				
	所管				
	金額				
	補助率				

提供可能資料：市広報、イベント広告用チラシ